

2018年度 センター試験 数学ⅡB (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：2題必答・2題選択				
難易度の変化（対昨年）	○ 難化	○ やや難化	● 変化なし	○ やや易化	○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加		● 変化なし		○ 減少
出題分野の変化	○ あり		● なし		
出題形式の変化	○ あり		● なし		
新傾向の問題	○ あり		● なし		

総評

難易度・分量について大きな変化は見られなかった。昨年度出題された複数の分野にまたがる問題がなくなり、また、全体的な計算量はやや減少した。一方で、定義を問う問題や数値ではなくアルファベットをマークさせる問題など受験生が戸惑いやすい問題、文字の変域や符号に注意を要する問題なども出題されている。よって、全体的な難易度としては昨年度と同程度とした。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	[1]三角関数 [2]指数・対数関数	30点	[1]弧度法の定義は、教科書に載っている基本事項であるが、一瞬戸惑った受験生もいたかもしれない。 誘導に従い加法定理、合成を用いて解く方程式の典型問題である。最後は文字の変域に注意を要する。 [2]対数の不等式に関する典型問題。置き換え、文字の変域の確認など、誘導も丁寧であり、受験生も解き易かったと思われる。
第2問	微分法・積分法	30点	接線、関数の増減、面積と定積分に関する典型問題。 文字定数がやや多いので一見やりにくく思えるが、誘導が丁寧なので解き易い問題となっている。定積分の計算量も例年と比べると少ない。 [2]は問題文を注意深く読まないと、符号のミスをしやすい。
第3問 選択	数列	20点	等差数列、等比数列、階差数列、数列の和に関する問題。 漸化式に関する問題は出題されなかった。後半については、多くの受験生にとって初見となる数列の和の問題であるが、誘導に従っていけば、無理なく解くことができる。
第4問 選択	ベクトル	20点	三角形と分点に関する平面ベクトルの典型的な問題。 ベクトルの始点が三角形の頂点でないことが少々目新しいものの、自力で文字設定を行う必要もなく、誘導に従って計算していけば解くことができる。文字が多く、アルファベットをマークする設問もあるので、その点は注意が必要である。
第5問 選択	確率分布と統計的推測	20点	省略